図書室へ行こう

町生涯学習センター・図書室

☎ 096-234-2447（内線331）

■開館時間　午前９時～午後５時

■休館日　毎週火曜
年末年始

■貸出冊数　１人５冊まで

■貸出期間　15日間

「年間貸し出しランキング」コーナー

話題になった本や文学賞などの受賞作品、映画やドラマの原作本、著名人の本など、今年度貸し出しの多かった本はどんな本だったのか、「年間貸し出しランキング」コーナーを作って紹介しています。

「ほとんど読んだ」「これは読んでいない」「こんな本があったのか」など、楽しくチェックしていただけると幸いです。

お気に入りの本は、何度でもどうぞ。読み返すたびに物語や知識が深くなります。ぜひ、ご利用ください。

▲年間貸し出しランキングコーナーにぜひお越しください

0歳児からのおはなし会について

図書室では、毎月第2木曜日に「0歳児からのおはなし会」を行っています。

絵本の読み聞かせや、手袋人形、手遊びうたなど楽しい内容です。

子育て中の保護者のみなさん、おじいちゃん、おばあちゃんも子どもたちとお気軽にご参加ください。

- **日時**　3月13日（木）　午前10時30分～
- **会場**　おはなしのへや（甲佐町生涯学習センター図書室内）

新着図書紹介

小説

綱を引く
堂場 瞬一 著／実業之日本社

東京・蒲田の綱引きチーム「プルスターズ」は、全国大会優勝の実績を持つが、高齢化や不況などで休眠状態。53歳のキャプテン真島は留学生ケリーとチームを立て直すことに…。競技綱引きの奥深さと人間ドラマに胸が熱くなります。

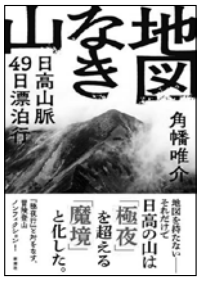
雪夢往来
木内 昇 著／新潮社

ふるさと越後が江戸で知られていないと悟った鈴木牧之。彼の書いた「雪話」は山東京伝の目に留まり、出版へと動き始めるが…。名著「北越雪譜」が世に出るまでの風雪と虚々実々の江戸出版界を描いた、本格時代小説です。

人魚が逃げた
青山 美智子 著／ PHP 研究所

「王子」と名乗る謎の青年が銀座の街をさまよい歩き、「僕の人魚がいなくなってしまって…」と語り、SNSのトレンドになる。その「人魚騒動」の裏で、「人生の節目」を迎えた５人の男女を待ち受ける運命とは…。幸せな読後感です。

一般書



地図なき山
角幡 唯介 著／新潮社

情報に覆われた現代社会に疑問を抱いた著者は、地図を持たずに日高の山に挑む。だが、百戦錬磨の探検家を待ち受けていたのは、想像を超える恐るべき混沌だった…。著者の世界観に引き込まれる冒険登山ノンフィクションです。

ライバルはいるか？
金間 大介 著／ダイヤモンド社

競争意識が強い人はなぜ優秀なのか。「みんな仲良く」では人は成長できない理由と、誰かと競うことの素晴らしき価値を、モチベーションの専門家が1200人のライバル実態調査から解明し、「実力以上」を引き出す方法を紹介します。

ナタ１本ではじめる「里山林業」
津布久 隆 著／農山漁村文化協会

自然に生えてきた植物を高値になる時期に採取・販売する「里山林業」。著者が実際に商品にしたことがある木本や草本の魅力、収穫の適期、作業のポイント、天然枝物の売り方まで、まるごとわかる「里山林業」の入門書です。

文化財探訪

～第126回～

「新たに板碑を確認　その1」

甲佐町教育委員会　北里　義友

令和6年2月27日、熊本県文化財審議員である前川清一先生に同行頂き、八丁区の十一面観音堂の近くにある個人宅地内にある石造物群について調査しました。その結果について2回に分けて紹介させて頂きます。

現地はコンクリート張りの池として利用されていたようです。池の周りには「灯篭1基」「板碑4基」「五輪塔の各部材（風空輪4基、火輪6基、水輪1基）」があります。

【バク種字板碑】

岩製で地上高101cm、最大幅52cm、最大厚25cm、下部に蓮座が施されています。上部の月輪（がちりん）の中には、釈迦如来を表す「バク」の種字（しゅじ＝梵字）が刻まれています。また、板碑の中央には逆修（意味：自らの死後の冥福を祈ること）の意味を示す文字が見られますが、剥離のため紀年銘等と共に確認できませんでした。板碑の形態などから十六世紀半ばころの戦国時代の建立と推測されます。

【卍字板碑】

砂岩製で地上高75cm、最大幅41.5cm、最大厚57cmです。上部の月輪の中に「卍」が刻まれています。また、板碑の中央には「松屋栄秀」、その右側に「永禄十三（その下部は土中のため不明）」、左側に「四月九日」と記されています。永禄十三年は西暦1570年にあたることから、十六世紀後半の戦国時代の建立であることが分かります。

◀八丁の十一面観音堂の近くに建立された石造物群

お問い合わせ先　町社会教育課　☎096-234-2447（内線324）

人権　～心豊かに暮らすために～

甲佐町就学前人権教育部会第2回研修会を開催

令和7年1月18日（土）、甲佐町生涯学習センター輝ホールにて、「令和6年度甲佐町就学前人権教育部会第2回研修会」が開催され、町内保育園（所）職員など44人が参加しました。

研修会では、熊本県立こども総合療育センター事務部長の隈部寛子さんが「子どもの権利擁護～制度と実践」と題し講演。子ども基本法や児童福祉法など、子どもが持つひとりの人間としての権利や、すべての子どもが幸せに健やかに育つための権利などを詳しく解説し、その法を踏まえたうえでの子どもへの関わり方や接し方について、具体的な事例を交えた報告がありました。

隈部さんは、「こどもが幸せに成長していけるように、実践を通じて権利擁護を実現していきましょう。支援者であるあなた自身も、あなたの仲間も、お互い認め合い褒め合って力をつけていきましょう」と参加者に向けてエールを送りました。

参加者からは、「具体的な内容をもとに経験をまじえて話してくださったので、とても興味深く聞くことができました。自分の職場でも実践してみようと思う内容がありましたので、さっそくやってみたいと思います」、「命に向き合う仕事なので、子どもの心身が健康に育つよう取り組んでいかなければならないと思います」などの感想がありました。

●お問い合わせ先
町社会教育課
☎096-234-2447
（内線327）

▲子どもの権利擁護について考える参加者